講義名	国際経営論				
科目区分	学部フリーゾーン				
担当教員	李　東浩				
開講期・曜日・時限	後期 木曜日 ４時限		授業形態		
	2018年度 経済学部 経済情報学科 情報システムコース／2018年度 経済学部 経済情報学科 経済情報コース／2018年度 経済学部 経済情報学科／ 2018年度 経済学部 経済学科 地域まちづくりコース／2018年度 経済学部 経済学科 現代経済コース／2018年度 経済学部 経済学科／				
履修開始年次	２年生	単位数	2	備考	

主題と概要

後期では、コロナ禍の拡大収束状況に次第、以下のような方針で対応していきます。
①大学が一部対面授業（ゼミなど）を実施できる場合：本授業はオンデマンド型授業とします。
②コロナ禍が拡大し、大学が一部対面授業（ゼミなど）でも実施できない場合：本授業はLIVE型授業とします。

★本授業は独自開発した「ファイブ・モジュール」考える学習型授業教育法を実施する★
★本授業の実施方法の詳細について、https://ryuka.repo.nii.ac.jp/ →「高等教育推進センター紀要→第２号→以下の論文を参照してください（全文無料ダウンロード可）。　李東浩（2017）「学生の心を掴む生きた教育 ―教学双方の意識転換によるアクティブラーニング― 」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第２号　pp.75-104（30頁）★
★ちなみに、本ゼミの実施方法の詳細について、以上同様に→第３号→以下の論文。　李東浩（2018）「学部ゼミ運営に関する一模索 ―「楽しく頑張る」から「ひとづくり」―」」『流通科学大学高等教育推進センター紀要』第３号　pp. 1-19（19頁）★
★真面目な学生・本気に勉強の意欲がある学生は強く勧める★
★毎回、面白いビデオがある★
★毎回、楽しいレスポン課題提出がある★
★先生だけからの学びではなく、学生同士が互いに勉強できる革新的な学びの仕組み★

ICT（情報通信技術）とグローバル化の進展により、多くの企業は、母国以外でも積極的に事業展開を進めている。欧米日など先進国の企業による国際的な事業展開は勿論長い歴史があるが、最近、新興国企業による国際展開も目覚しい。この講義は、多国籍企業の事業活動に関する理解を深め、それに関する基本理論・特徴と実態を把握し、異文化、異なる制度環境という視点から企業経営を分析する能力を身につける。

到達目標

①知識・技能の観点：
本授業は、学修するものにとって当然知っておくべき知識と技能を習得できる内容になっている。
②思考力・判断力・表現力等の能力の観点：
基本的な理論を紹介するだけでは面白くない。毎回の授業にビデオがあり実際の組織をも採り上げるので、理論と実際とをバランスよく理解できる。ただビデオを単なる見るだけで終わるのではなく、考え、判断、討論、発言、考え直し、まとめ、といった一連の仕組みで、毎回知識と能力が身につけることを実感できる。
③主体的な態度の観点：
履修生は、本授業を学修することによって、能動的に主体的に勉強することの習慣を養成できる。

本講義を学修することによって、日常に企業に触れたり、企業に関する新聞記事を読んだり、ニュースを聞いて、国際経営的な側面から評価し、レポートにまとめることができる。
また、得られた国際経営の理論とケースの知識と能力を身につけ、世界的な大局観を形成できる。

提出課題

毎回、レスポンによる課題提出がある。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回、前回のレスポン課題を解説する。
優れた提出内容等を、マーカーや色付けで強調して表彰します。モチベーションアップにつながる。

評価の基準

コロナ禍の拡大状況やオンデマンド・LIVEの授業実施方法に関係なく、成績評価方法を以下のようにします。

★平日の出席（レスポン）：60%、期末試験：40%★

ただし、以下の2点、注意をしてください。
①授業出席の質量、優秀なレスポンなどはプラスに評価する。
②教学双方もすでに前期半年間の適応時期を経験したので、後期の本授業は、例年よりまた柔軟に対応するが、期末試験をも含めて、前期より相当評価基準が厳しくなること、気を付けてください。

履修にあたっての注意・助言他

先輩からの以下の意見を是非参考してください。
1．「五感に触れる画期的な授業」：→→充実な内容、効率的な進め方で知識と能力を身につけられる！
2．「この授業を1つの企業とすると、CEOに李先生で社員が私たち生徒だとすると、社員に意見する場を与えて、それを共有し、すぐに実行する。優良企業だと思います。モチベーションがとても高く維持できています」
3．「いま4回生だがもっと早くこの授業に出会いたかった」：→→知識そのものだけではなく、知識を獲得する姿勢と方法を学べる！
4．「単位を取ることはとても大切ですが、この授業では、それだけのための授業ではないと私は、強く思います」

教科書

.使用しない。.

プリント資料及び参考文献

1．レジメ（＝プリント）等資料は必ず各自事前に RYUKA Portal からダウンロードと印刷して教室まで持って来てください。早めにダウンロードを済ませてください。当日授業レジュメを教室まで持たない場合、除格の可能性がある。
2．授業はPPTとレジメ・資料、映像、討論で進む。レジメには穴埋めが相当設けられ、PPTと確認しながら記入してもらう。
3．参考文献：『ワークブック国際ビジネス』 文真堂　2009年。『国際経営論への招待』 有斐閣　2002年。『新グローバル経営論』 白桃書房　2007年。他授業中随時紹介。

授業計画

先輩からの以下の意見をも是非参考にしてください。
本授業の履修を勧めない３つの理由：
1．毎回出席し授業まとめ文（レスポン）を提出　→結構大変、面倒くさいかなあ。
2．授業内容も多く教室紀律も厳しい　→私語・居眠り・携帯弄りなどは不可能に近い。
3．期末試験はある　→結局、真面目でないと単位を取る確率は高くないかなあ。

授業シラバス。注：（　　）内はビデオ内容。
1　イントロダクション：講義の概要と進め方　（日本企業の逆襲第一弾）
2　フラット化する世界とグローカル化への理解（日本企業の逆襲第二弾）
3　小売り企業の海外進出：セブン＆アイの中国進出その１（仕事の流儀―三枝@中国　上編）
4　小売り企業の海外進出：セブン＆アイの中国進出その２（仕事の流儀―三枝@中国　下編）
5　生産体制の海外展開：トヨタの米国進出その１（NUMMIの過去、現在と未来　上編）
6　生産体制の海外展開：トヨタの米国進出その２（NUMMIの過去、現在と未来　下編）
7　国際企業を作ろう：ソニーの米国進出その１（ソニー神話の真実　上編）
8　国際企業を作ろう：ソニーの米国進出その１（ソニー神話の真実　下編）
9　国際戦略提携：鴻海とシャープその１（苦戦する日本テレビ・メーカー）
10　国際戦略提携：鴻海とシャープその２（復活なるか？液晶王国日本）
11　国際経営と国際企業（海外客を呼ぶ！）
12　国際現地を知ろう：中国の豊かさへの模索（貧富の超格差・爆買いと富裕層貧困層）
13　国際経営の理論基礎（無印良品の中東進出）
14　国際異文化経営（ビジョンの海外進出）
15　国際企業のマーケティング：現地適応（スキー場の国際経営戦略）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

	ア：PBL（課題解決型学習）
	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
○	ウ：ディスカッション、ディベート
○	エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション
	カ：実習、フィールドワーク

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回、「知識は力になる」こと、を実感できる。
毎回、「能力を蓄積する」こと、を実感できる。
だから、他のたくさんの授業のように、期末だけで猛勉強による一発勝負することはない（人生も同じような状況だろう！つまり人生も基本的に一発勝負ではなく、長年平日の積み重ねる努力こそは大事！）。
恐らくこの授業は、あなたの頭に永遠に残る大学授業の一つである（授業が終わっても長く長くまで鮮明に覚えるかもしれない）。
興味と余力があれば、授業の指定する参考文献をも読んでほしい。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

講義を聞くだけではなく、考えてグループワークで喋べたり、発言をする。
映像を見るだけではなく、メモしたり分析して、レスポンに回答を出し、発言をする。

実務経験の有無及び活用

備考

学生による評判が高い本授業は以下の特徴があるので、真面目な心構えがあれば是非一度体験してみませんか。
①遣り甲斐のある授業（そうか！これこそは大学らしい授業だ！）。
②静かで受講できる環境（私語ほとんどない！）。
③退屈ではない（退屈の時間さえもない！）。
④みんな一緒に互いに勉強する（自力・他力、皆の力を感じろう！）。